

花草木

【ネモフィラ】

ネモフィラ（学名：Nemophila、和名：瑠璃唐草（るりからくさ））は、北アメリカ西部が原産のムラサキ科ネモフィラ属に属する一年草です。ネモフィラ属には18種がありますが、栽培されるのはブルーのメンジェシー種（Nemophila menziesii = インシグニス）です。

森の妖精のような、澄んだブルーの花が愛らしく、春の花壇やコンテナの寄せ植えなどに多く利用されています。細かく切れ込んだ葉が密に茂り、自然に分枝して咲きながら大きくこんもりと成長します。開花の時期は4～5月で株張りは20cm以上になり、鉢やコンテナだけでなくグラウンドカバーとして“青いじゅうたん”ように咲かせると見事です。



市内の公園で咲いていたネモフィラの花

特に有名なのが、茨城県にある国営ひたち海浜公園の「みはらしの丘」を青く染めるインシグニスブルーで、空と海と溶け合うような景観が人気です。

ネモフィラの花言葉：どこでも成功、可憐、あなたを許す、清々しい心。

我が署のスタッフ

京都大阪森林管理事務所

上田 弥侑（うえだ みゆ）（令和7年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

昨年度、治山グループの係員として採用され、未経験ながら工事を1件担当し監督業務に従事しました。

今年度は溪間工および山腹工の2件を担当する予定です。主な業務内容は、測量・設計・積算などの発注事務や、治山工事に係る監督業務です。業務を進める中で、未だ知識不足を感じる場面もありますが、仕事の流れや関係法令の根拠を一つ一つ確認し、正確で丁寧な業務遂行を心掛けています。

【職場の雰囲気は？】

分からないことをそのままにせず、上司や先輩に気軽に相談できる良い職場です。疑問点に対して丁寧に指導を受けられる環境が整っており、安心して業務に取り組むことができます。



熊スプレーのテスト噴射様子_大谷国有林（舞鶴市）
おおたに

【林野庁の魅力は？】

OJTや各種研修が充実しており、林業や土木の知識が少ない状態からでも着実に成長できる環境です。また、デスクワークに加え現場での業務もあるため、状況に応じて臨機応変に対応する力や広い視野を養える点も魅力だと感じています。

森林事務所紹介

岩国森林事務所（山口森林管理事務所）

森林官 平木 里南（ひらき りな）

岩国森林事務所は山口県岩国市に所在し、山口県東部に位置する岩徳森林計画区のうち岩国市と周防大島町に所在する国有林 1,551ha 及び官行造林地 519ha を管轄しています。

管内の城山^{しろやま}国有林は、錦川に架かる名勝「錦帯橋^{きんたいきょう}」の借景となっており、レクリエーションの森「岩国自然休養林」に設定されるとともに、「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されています。様々な文化遺産と樹木 210 種・草花 350 種・シダ類 100 種類が確認されている照葉樹林は森林公園としての機能も高く、市街地に近接していることもあり、ハイキング、自然探索、生態観察などの場として年齢を問わず多くの人々が訪れ、岩国城や錦帯橋を含めた観光地として広く利用されています。

さらに、城山国有林の一部には「檜皮採取対象林^{ひわだ}」を設定しており、歴史的木造建造物の維持・修繕のための資材（檜皮）としての供給や、檜皮採取技術者である原皮師^{もとかわし}養成のためのフィールドとして活用されています。

また、岩国市北部に位置する寂地^{じやくち}国有林は、全域が「西中国山地国定公園」に指定されるとともに、山口県最高峰である寂地山（1,337 m）の山頂付近一帯は山口県におけるブナ・スギの希少な群落の保護を目的とした「寂地山ブナ・スギ希少個体群保護林」に設定され、豊かな森は訪れる人々を楽しませています。

とくに、4月中旬から5月初旬の時期はカタクリの花が咲き誇り、多くの登山者が訪れることから、登山道となる寂地林道の整備活動を岩国市錦総合支所やボランティア団体と協力して行い、登山者の安全確保に努めています。

このように、管内には観光客や登山者が数多く訪れる国有林が多いことから、引き続き適切な管理に努めてまいります。

皆様も、機会がありましたら当事務所管内の国有林にぜひ遊びにきてください。



錦帯橋と城山^{しろやま}国有林



檜皮採取の様子



カタクリの花



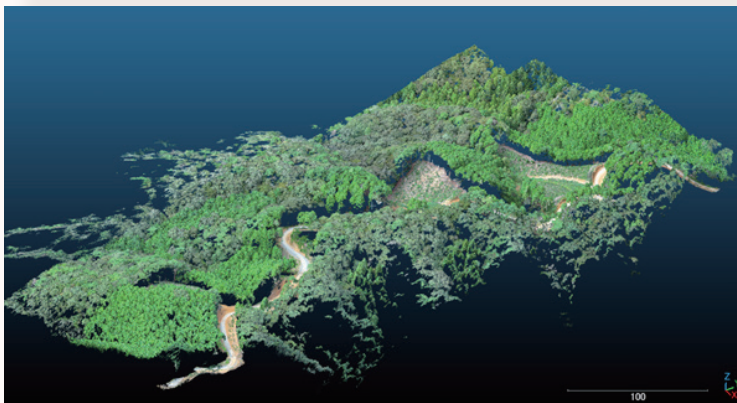
寂地山に至る林道整備の様子

シリーズ『国有林 最前線！』

ドローン画像等と AI 解析技術を活用した国有林管理の高度化 — 産学官連携による実践的な取組 — 三重森林管理署

近年、国有林の管理においては、森林の高齢化や松くい虫被害の拡大など、様々な課題への的確な対応が求められています。こうした中、現地調査の効率化や安全性の向上を目的として、先端技術の活用が進められています。

三重森林管理署では、森林総合研究所関西支所のご助言をいただきながら、DeepForest Technologies 株式会社と共同で、ドローン等による高精度画像と AI 解析技術を活用した取組を進めています。



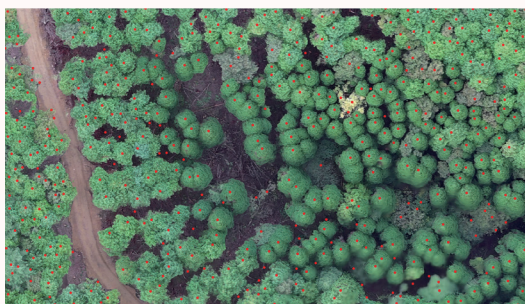
オルソ画像による森林調査

森林の概況等の把握に当たっては、これまで広範囲にわたる踏査や小面積の標準地調査（面積、胸高直径、樹高の調査）を時間と労力を掛けて行っています。

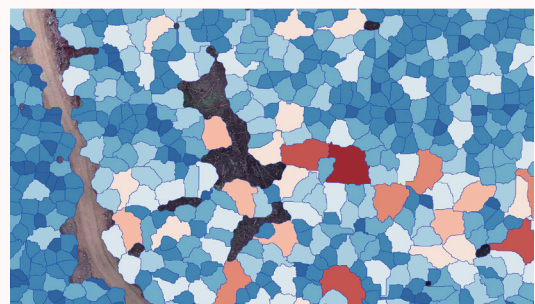
また、天然林では、更にその把握は困難となります。

ドローン等の高解像度画像を活用すれば、上空から森林の全体像を網羅的に把握することが可能です。撮影した画像を基に専用ソフトでオルソ写真や数値標高画像を作成し、分析することで、林分の全体像把握や調査の効率化が行えます。

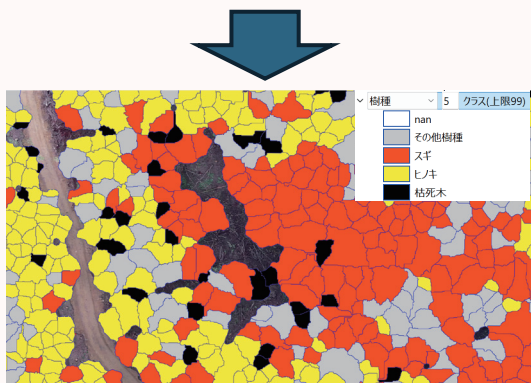
DeepScanner (DeepForest社) による森林解析



【数値標高画像から樹頂点を検出】



【樹幹面積を算出】



【AI による樹種判別】

更に、数値化した情報を AI 解析技術を活用し、解析することでこれまで目視等で行っていた樹種の判別、樹高や直径等も把握でき、林分全体の詳細な状況の把握も可能となります。

今後、この技術の実用化に向け、現地検証も含めて行い、共同研究を行ってまいります。